

2021年02月16日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【日経平均が3万円を超えた】

日経平均が3万円を超えた。

3万円台を見るのは、非常に久しい。

日経平均が、最高値の3万8千円台を付けたのは、1989年、ないしは、1990年だから、もう30年以上も昔のことになる。

その当時、私は、ニューヨーク市場から東京市場に戻っていた。

そう考えると、私自身も、「行ける化石」だな、などと苦笑いをしている。

日経平均が3万円を超えたことは、喜ばしい。

しかし、この株価の上昇は、何が原因(理由)であれ、世界中で、金融緩和策が採択されて、「金余り現象」が起こり、行き場を失った資金が、大量に株式市場に流入している、ということ、そう理解している。

もちろん、何が原因(理由)か、と言えば、「新型コロナウイルス」が原因(理由)だ。

今回の世界的な株価上昇は、ある意味で、「バブル現象」と捉えている。

しかしながら、私見では、「バブル現象」を悪とは、考えていない。

長く低迷してきた日経平均が、3万円を超えて上昇しているのは、事実であり、それが「バブル現象」であっても、「バブルが弾けるまで」は、「バブルの拡大」が続くからだ。

つまり、「バブルが弾けるまで」は、株価の上昇は続く、と考えている。

株価の上昇は、景気を浮揚させるので、一概に悪とは言えない、と考えます。

+++++

コロナウイルス問題で、様々な業種の苦境が伝えられている。

飲食業や、航空会社のような旅行関係の仕事に従事している方々は、大変な思いをしている。

しかし、その一方で、このような状況だから、業績が好調であることを強調できないのだろうが、圧倒的に、業績を拡大し、大きく利益を出している企業も多々ある。

そのような好業績を上げている企業が、株価を引っ張っている、と言えるのだろう。

+++++

ワクチンも開発が進み、時間が経過すれば、コロナウイルス問題は、徐々に下火になっていくの
だろう、と推察している。

しかしながら、コロナウイルス問題で、変化した生活様式は、コロナウイルス問題が発生する前
の状態には戻らないのだろう、と推察している。

コロナウイルス問題は、既に変化した生活様式に沿ったニーズに合わせて、各企業が努力しなけ
ればならないことを、示唆している、と捉えている。

別な言い方をするのならば、コロナウイルス問題は、不要不急の商品（物品・サービス）をあぶ
り出した、と言えるのではないか、と考えている。

+++++

（2021年02月16日東京時間15：10記述）